

原稿募集中！

編集後記

◇今月号は地球規模の環境問題に関連して、海洋における物質循環研究の現状を特集しました。今年の6月にブラジルで開かれる地球サミット（環境と開発に関する国連会議）を目前にひかえ、この地球環境問題のニュースがマスコミに登場しない日はないくらいです。全世界の人々による地球環境問題への関心がかつてない程に高まり、問題の解決へ向けた調査研究や対策技術の開発が、多くの国の機関で集中的に実施されています。

◇地質調査所でも海洋地質部を中心に、平成元年度以降地球環境問題のうちで最も重要とされる地球温暖化防止関連の研究プログラムが開始されました。また、砂漠化機構の解明などの地球環境問題に関連した様々な調査研究が活発に行われています。

◇人間活動によって放出された二酸化炭素の約半分しか大気には残存せず、その残りの吸収源を解明できないという“ミッシングシンク”に関連し、外洋域における粒子状物質の挙動などの炭素循環の研究は今後ますますその重要性を増すものと思われます。

本特集号では、膨大な量の海水や海底・サンゴ礁に関わる海洋の物質循環の研究に焦点をあて、日本周辺から南極海に至る広範囲な海洋における調査研究の現状を、若手の研究者に最新の資料を用い述べていただきました。特集号の企画と原稿依頼は、海洋地質部の川幡穂高氏にお願いしました。

◇ともすると対症療法的になりがちな科学技術に、地球本来の姿を意識した対策が併せて検討されるべきであるとの本号の著者による指摘は、地球環境問題全てにあてはまるのではないかと編集者も考えています。地球環境問題の解決に求められる基礎的研究には、従来の実験室レベルの研究だけでなく、巨大で複雑な地球を一つのシステムとして把える研究が必要であり、その重要性が増しています。

磯部一洋 記

地質ニュース編集委員会

委員長：佐藤壮郎
 副委員長：佐藤興平・磯部一洋
 幹事：宮崎光旗・尾上亨
 委員：滝沢文教・岡村行信・鹿野和彦・山口靖・金沢康夫・佐藤岱生・松本則夫・三田直樹・松浦浩久・渡部芳夫
 事務局：総務部業務課広報係（山口秀樹・清水真寿美）
 〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所
 地質ニュース編集委員会
 事務局 Tel. 0298-54-3520
 Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュースに寄稿される方へ

1. 地球科学各分野の最近の話題・総説・解説など多方面の原稿を募ります。
2. 原稿は図・表・写真を含め、原則として刷上がり15ページ以内とします。これをこえる場合は事務局に相談して下さい。地質ニュース原稿用紙（25×18字）4枚半が1ページに相当します。
3. ワードプロセッサ使用の場合も、A4判用紙に1行25字とし、行数は20-25行程度として下さい。
4. 句読点・引用符などもすべて1字として下さい。
5. 図・表・写真は本文とは別に1枚1ページとして、それぞれに番号をつけるとともに、希望する掲載サイズを余白に記入して下さい。これらにつける説明文は、本文とは別の原稿用紙に書いて下さい。とくに図と写真は、縮小率を考え鮮明なものを出して下さい。
6. 原稿の右欄外に図・表・写真の希望する挿入位置を鉛筆で記入して下さい。
7. 表紙やグラビアに用いるカラー写真は、プリント版の他に原版のポジ（スライド）を提出して下さい。プリント版のみの場合は、カビネ〜六切サイズ（表紙は六切）のものに限ります。
8. 原稿は事務局に提出して下さい。編集委員会から受付カードを発行します。掲載は原則として受付順としますが、速報性の高いものは優先的に印刷したいと思います。

<地質ニュース編集委員会>

購読者募集中 申し込みは編集委員会へハガキで

地質ニュース	第452号 1992年4月号
	定価 ¥770 千実費
1992年4月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	林久雄
発行所	株式会社実業公報社
	東京都千代田区九段南4の2の12
	〒102
	Tel. (03)3265-0951 (代表)
	振替口座 東京1-32466
	麹町局私書箱第21号
印刷	奥村印刷株式会社

©1992 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の震が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。